

取材のご案内



平成 25 年 1 月 29 日
東京文化発信プロジェクト室
(公益財団法人東京都歴史文化財団)

2月・3月、恵比寿/六本木エリアが、世界規模のアート発信拠点に！

**世界各国の映像とアートのお話作を—『第5回恵比寿映像祭』
延べ 70 万人*参加のアートの饗宴—『六本木アートナイト 2013』**

東京都と東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)では、来る2月、3月、東京から世界にアートを発信する二つの対照的なフェスティバルを実施いたします。

■ 第5回恵比寿映像祭 総合テーマは『パブリック≠ダイアリー』

映像とアートの総合的なフェスティバル「第5回恵比寿映像祭」が、2月8日(金)から24日(日)の15日間にわたり、東京都写真美術館と恵比寿ガーデンプレイス周辺にて実施されます。

今回の総合テーマは『パブリック≠ダイアリー』。インターネットやPC、スマートフォンなどの普及で「公」と「私」の境界が曖昧な現代の表現や映像メディアの可能性と課題を考えます。

写真家、荒木経惟氏の最新日記シリーズや、次回ヴェネツィア・ビエンナーレ、イギリス館代表のジェレミー・デラー氏の3D映像、瀬戸内国際芸術祭の「ファスナーの船」などで知られる鈴木康広氏の大型屋外展示など、世界各国のアーティストや映像作家の作品が体験できます。入場無料(ただし、定員制の上映、イベントなどは有料)です。

※「第5回恵比寿映像祭」の詳細は、[公式ウェブサイト](#)をご覧ください。

■ 六本木アートナイト 2013 今年のテーマは『TRIP→今日が明日になるのを目撃せよ。』

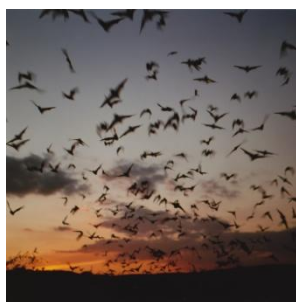
六本木の街を舞台に、繰り広げられる一夜限りのアートの饗宴。デザイン、音楽、映像、パフォーマンスなどを含む多彩なアート作品がちりばめられた街を夜通し旅するアートイベントです。今回、初めて導入したアーティストックディレクターに、アーティストの日比野克彦氏を迎えました。六本木ヒルズアリーナに設置される“灯台”のモニュメント「TRIP→プロジェクト」や、日比野氏と気鋭作家たちがコラボレートし、各所に現れる「アートブネプロジェクト」など、街を“港/port/terminal”と捉えた様々な作品が登場します。3月23日(土)10時から翌24日(日)18時まで、六本木ヒルズ、東京ミッドタウン、国立新美術館をはじめ六本木各所にて実施されます。一部のプログラム及び美術館企画展を除き、入場無料です。

※「六本木アートナイト 2013」については、[別添資料](#)をご覧ください。

*平成23(2011)年度実績:約70万人(全プログラムの延べ鑑賞者数)

恵比寿と六本木、東京でも有数のカルチャー発信源でありながら、その佇まいを異にする二つの街で繰り広げられる東京文化発信プロジェクトの代表的事業です。多彩な顔を持つ東京という都市の魅力が浮き彫りになるまたとない機会です。

ぜひとも貴媒体でお取り上げくださいますようお願い申し上げます。



『第5回恵比寿映像祭』

ジェレミー・デラー《エクソダス》2012

Courtesy The Modern Institute/Toby Webster



『六本木アートナイト 2013』メインビジュアル(左)

アーティストックディレクター日比野克彦氏(右/撮影:後藤充)

